



↑ 大津中央公園に設置されている太陽光パネル

り組んでいきます。
まちおこし大学を活用し、地域の産業や新エネルギーなどの政策に参画し、活動できる人材を育成し、協働のまちづくりを推進していきます。
超高齢化社会が進むなかで、安心して家族と共に暮らせる地域をつくりあげる、在宅介護支援サービスの充実に努めます。
また、現在、集落単位で進めている地域福祉については、今後、校区を単位とした取り組みへの拡大を目指し、社会福祉協議会や地域が連携し、自助、共助、公助の役割を認識し、お互いが支えあう「地域の絆」を大切にしたまちづくりを推進していきます。

第二 「命を守る」 EYE ON

昨年7月に発生しました「九州北部豪雨災害」においては、今回の災害の事後検証を徹底的に行い、町の危機管理体制の見直しや強化とともに、災害発生時の

お互いが支えあう「地域の絆」を大切にしたまちづくりを

避難所の見直しを行っていきます。
特に近年、ゲリラ豪雨が多発しています。排水対策のために、上井手、下井手などの河川の改修につきましても、引き



↑ 子育て・健診センター

続き進め、災害に強いまちづくりをめざします。
また、大雨時の河川などの水位を的確かつ、迅速に把握するための体制を強化するとともに、町民の皆さんへの情報提供のシステムづくりに取り組みます。
今回の豪雨災害において、地域の助け合いと地域の絆が防災には欠かせないものであると改めて認識したところです。行政による「公助」の機能強化はもちろんですが、自らの身は自らで守る「自助」、さらには、地域で支え守りあう「共助」の意識を高めていくために、自主防災組織の活性化や地域防災リーダーの育成などに取り組んでいきます。
一方、町内のすべての小中学校に防犯カメラを設置し、子どもたちの安全な教育環境に取り組んでいます。JR肥後大津駅南口のビジターセンターにも、防犯カメラを設置し、防犯体制の強化に努めています。今後、新たな場所への防犯カメラの設置やJR肥後大津駅前への交番

の設置を警察に求めていきます。
引き続き、安心・安全なまちづくりを目指し、パトロールセンターを拠点として、地域ボランティア、団体ボランティア

制を図っていきます。

「子育て・健診センター」の隣接地には、子どもから高齢者まで自由に集える憩いの場、健康づくりの場として「大津中央公園」があります。世代を超えた交流ができ、住民の皆さんがいきいきと健康的な活動ができるように公園のPRを積極的に行っていきます。

「子育て・健診センター」を拠点に子育て支援と健康づくりを

大津町の人口の増加、特に子育て世代家族の増加に伴う待機児童の解消と保護者などの保育ニーズに応えるため、家庭的保育事業（保育ママ）の拡充などに取り組んでいきます。

子ども医療費の補助については、保護者の皆さんの経済的負担の軽減のため、小学6年生まで実施してきたところですが、さらに、中学生まで子ども医療費の補助を拡大することを検討します。
幼保小中の連携を図りながら引き続き、子育ての不安や悩みの解消に向けて、

子育てをしやすいまちづくりを推進していきます。

人権尊重のまちづくりについては、お互いが人権を尊重する心豊かな住みよいまちとなるよう、人権啓発福祉センターを拠点にして、南杉水人権のまちづくり協議会と連携した取り組みを進めていきます。

また、法務局大津出張所跡地にオープンした「歴史文化伝承館」を活用し、町の歴史と文化を次世代に継承していくための拠点づくりを推進していきます。

現在、各行政区において、役場職員を地区担当職員として配置しており、それぞれの地域と行政との情報の共有に努めています。今後も、引き続き、この制度をさらに活用し、地域の要望、課題をしっかりとりえ、町と地域の情報をお互い共有していきます。

町民と行政がそれぞれの役割を認識し、自主性・自立性を高めながら個性豊かな地域社会を形成するため、町民と行政が主体性を持ち、連帯意識に支えられた、「協働のまちづくり」を推進していきます。



↑ 美咲野小学校

努めていきます。

第三 「子育て」 教育の推進」に EYE ON

教育については、大津町教育基本構想に基づき、「夢を持ち、夢を育み、夢を叶える」教育実践のもと、「生きる力」を身につけ、よき社会の形成者として未来を拓く子どもの育成」を目指した教育を推進しています。

4月には、美咲野小学校が開校しました。地域に開かれた学校、地域に愛される学校を目指した取り組みを進めていき

子どもから高齢者まで自由に集える憩いの場、大津中央公園